



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2024 年 1 月 19 日 (2023 年度のチャレンジプラン)
プラン名	オープンストリートマップ水害地図充実化から始める 『(Web 上) 常総水害ボランティア顕彰館』構築準備事業
実践団体名	見てみようよ！常総市の会
代表者名	染谷みどり
電話番号	090-1836-9444
メールアドレス	0uh2k6537852v2b@ezweb.ne.jp
実践団体の説明	当会は、平成 27 年関東東北豪雨で鬼怒川堤防が破堤、市内中心部が大洪水に見舞われた茨城県常総市において、水害の記憶を消し去る復興ではなく、水害記憶を継承しながらの復興を望む市民活動団体として設立。市内の各地（許可を得た場所）に当時の高水位の高さを示すステッカーを貼る参加型スタディツアー「ステッカーツアー」や、川と街を舞台にしたガイドウォーク、カヌー体験等の水害継承イベントを実施してきた。2022 年度から web 上の無料地図「オープンストリートマップ」を活用した取組を実施してきている。
所属メンバー	染谷みどり（代表）、中村ゆき江（会計）。佐藤孝俊（事務局） 森 良（顧問）、石川理司（会員）
活動の本拠地	茨城県常総市
活動開始時期・結成時期	平成 28 年 2 月
過去の活動履歴・受賞歴	2017 年度、2018 年度、2022 年度、2023 年度 防災教育チャレンジプラン実行団体採択・事業実施

プランの基本情報

プランでの実践主体	4. 地域組織
プランの運営側の人数（実数）	約 4 人
プランの活動地域	茨城県常総市
プランの防災教育の対象者	12. 地域住民 19. 防災関係者 20. 全ての人々



防災教育の対象者の人数（実数）	約5万人（常総市民）
プランが対象とする災害	3. 風水害
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 6. 災害に強い地域をつくる 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 11. 家庭や地域で行う個別学習
プランでの連携先	7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体 11. ボランティア 12. NPO 16. 個人
実践にかかった金額	30万円未満・



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	進行打合		
5月		<ul style="list-style-type: none"> 被災証言映像収録準備 ぼうさいこくたい参加申請 	
6月	進行打合		被災証言映像収録
7月		ぼうさいこくたい参加申請同採択	
8月		<ul style="list-style-type: none"> ぼうさいこくたい参加準備 「(web上) ボランティア顕彰館」構築第1回検討会準備 	
9月			<ul style="list-style-type: none"> ぼうさいこくたい参加 「(web上) ボランティア顕彰館」構築第1回検討会開催 被災証言映像上映会
10月	進行打合		
11月		「(web上) ボランティア顕彰館」構築第2回検討会準備	
12月			「(web上) ボランティア顕彰館」構築第2回検討会開催
1月		「(web上) ボランティア顕彰館」構築第3回検討会準備	
2月			「(web上) ボランティア顕彰館」構築第2回検討会開催予定
3月			



実践したプランの内容

<p>プラン全体の概要</p>	<p>平成 27 年関東東北豪雨災害から 8 年となる常総市において、水害記憶の次世代継承のため、web 上の無料プラットフォーム「オープンストリートマップ (OSM) 」を活用した「発見街歩き地図作りイベント」とその後の OSM への随時書き込み可能化を、観光振興と抱き合わせたかたちで前年度より、推進してきた。2023 年度は OSM 充実化を図り Web 上『常総水害ボランティア顕彰館』構築のための資料ソースと構築企画者を含めたネットワークを強化し、同資料館サイトの構築プランを練るものとして、市民を中心に、ボランティア活躍エピソード掘り起こしを進めるため、これまでコンタクトしてきた層からさらに呼びかけを広げての企画検討会を実施する（第 1 回を 9 月末日に、第 2 回を 12 月 4 日に実施。第 3 回を 2 月上旬に予定）。</p>
<p>プランの「チャレンジ」の結果</p>	<p>水害 8 年となる常総市において、被被災者の高齢化、新住民の流入などにより災体験の風化が加速している。この風化の加速化にブレーキをかけ、また新たな方法で、被災体験の無い住民や若い世代等を巻き込んで、より広がりのある災害体験継承と防災啓蒙を市民運動として継続していけるかがチャレンジである。この 1 年間は、Web 上の災害メモリアル館を「ボランティア顕彰館」として次年度に開設すべく、広がりがある市民層を巻き込んで企画検討会議を 3 回実施する。この中で、地元防災士会や、行政にも一定の理解が得られ、今後の運営に関して検討を続ける土壌が生まれた。</p>
<p>実践内容・方法・成果</p>	<p>2023 年度は「オープンストリートマップ」充実化を呼び水とし、かねてからメンバーの中および関係者でその必要性が認識されてきた“水害資料館”を web 上で立ち上げていく準備活動を年度内をかけて継続実施する。水害資料館建設の提案は行政（市）にも過去出しているが、ハードの建設は予算的に不可能であることが判明している。そこで「オープンストリートマップ」と連動させたかたちで同館を、『常総水害ボランティア顕彰館』と題して web 上に構築していくことを企画した。この web 上館の整備についての企画会議を市民各層を集めて開催する（年度内 3 回）。成果として web サイト内の掲載コンテンツとして「市民からのボランティアへの感謝・エピソード」「当時ボランティア参加した人からの“思い出”メッセージ」「災害概要」「市民から寄せられた減災ノウハウ」「水害被災証言インタビュー」などの項目が挙げられ、会議参加者も、地元防災士会や NPO 関係者、被災地区長などの参画を得ることができた。また、事業支援費外の取組として 9 月に開催された「ぼうさいこくたい」にも参加、団体活動を来場者に紹介するとともに、水害当時常総に来訪いただいたボランティアの方がいらっしやればそのエピソードを教えていただきたい、復興なった常総市に来訪いただきたい、と訴え、実際に会場にいらっしやっていた「当時常総市で災害対応をしていた」という方からお声かけいただき、コンタクトをとることができた。</p>



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。
該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした	
2. (準備段階) <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした	市内被災地区の現区長や、水害時区長だった方々に声かけし会議に参集いただいた。
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った	『(Web上) ボランティア顕彰館』の構築を企画するにあり当会としての活動から一歩広げた市民組織での運営を前提としたいため、「市民プロジェクト」団体を構築準備中。
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した	
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた	
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した	
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した	行政連携で推進できないか打診中
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた	
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：webサイトを引用した	



<p>10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた</p>	
<p>11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した</p>	行政連携で推進できないか打診中
<p>12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した</p>	
<p>13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた</p>	
<p>14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	
<p>15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた</p>	
<p>16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った</p>	
<p>17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：web サイトで発信した</p>	「ぼうさいこくたい」に参加し団体活動紹介をおこなった
<p>18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した</p>	



今後の活動予定・今後の展開	2025年が“水害十年”のメモリアルイヤーになり、2024年はそのPre Yearである。2024年度内に市民プロジェクトとして『常総水害ボランティア顕彰館』をweb上に整備し、市民からのボランティアへの感謝メッセージやエピソードを集め、市外の方々との交流の基盤を確立する。そして2025年には「復興なった常総市にぜひ再訪してください」という、当時ボランティア来訪いただいた全国の方々への呼びかけを、市の観光キャンペーンとして推進していく形にしたい。これを現在、行政にプレゼン中である。
---------------	---

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

その他（PRポイントなど）	
---------------	--